

5月4日(月曜日)「ソロモン(6)神殿の聖別」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記 9・1-3

「主は彼に仰せられた。『あなたが……願った祈りと願いを……聞いた。……わたしの名を……置くために建てたこの宮を聖別した。わたしの目とわたしの心は、何時もそこにある』」(3節)

主は、先にご自身の栄光を神殿に満たしてくださいましたが、その後更にソロモンに現れてくださり、言葉をもってその建物を神の神殿(宮)として認知されました。

ここから、「神のための建物」を神がどう見られるかがわかります。①神はご自身の名を置いてくださいます。神のものとし、ご臨在くださるといことです。「聖別」とはそういう意味です。②神の目と心がいつもそこにあります。神の正しく優しい「目と心」があるとは、なんとという励まし、なんとという慰めでしょう。これは、義と愛の神の豊かな臨在そのものであり、そこに出入りする者、そこを思う者に、神との交わりと祝福を得させてくださることを意味しています。

今日の会堂も、主のものであることを覚えて集いましょう。

～祈り～

主よ。私たちの会堂も聖別し、あなたの豊かな臨在の場としてください。
礼拝や集会において、参加者が確かにあなたにお会いできますように。

【学びのために】

聖別とは、聖なる神との関係を持つものとして「より分けること」を意味します。神の栄光や御業のために用いられるよう取っておくことです。
人や物事についても使われます。